



-Amazing Grace- Dec.2013

**「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。
この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」**

マタイの福音書1章21節

この言葉はマリヤの婚約者であったヨセフに天使が語った言葉です。ヨセフはその時、自分の子どもではない子を宿したというマリヤとは別れようとしていました。それに対して神は、天使を通して「恐れないうあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」と告げ、マリヤを受け入れるようにヨセフを励ましました。

それからヨセフは、生まれてくる子供の名をイエスとつけるように言われました。イエスという名前には「主は救い」あるいは「主は助け」という意味があります。イエスはその名の通り、神から離れてしまって罪に縛られ、永遠の滅びに向かっている私たち人間を救ってくださる方です。

十字架は教会の印ともなっています。けれども、それ以前に十字架は、罪に対する神の裁きの印です。本来なら、神の目に罪人である私達が裁かれ、その報いを受けるのです。しかし、罪を裁く十字架につけられたのは罪人である私達ではなく、罪人ではなかったイエス・キリストでした。

このことによって、神が私達をどのように扱おうとされているのか知ることができます。すなわち、神はイエス・キリストが私たちに代わって裁きを受けてくださったゆえに、私達をそのまま受け入れ、罪を赦し、新しく生かそうとしておられるということです。罪を重荷にたとえれば、神は私たちの肩にかかる全ての重荷を、神のひとり子であるイエス・キリストに肩代わりさせて、私達の肩から取り去ろうとしてくださったのです。

ヨセフに対する天使の言葉の中でもう1つ、誰を救うのかということが言われています。神は「御自分の民を」救われるのです。御自分の民とは誰のことでしょうか。これは、地上のある民族を指して言っている言葉ではありません。特定の民族が救われると言うのではないのです。神が救われるのは、自分の罪に気づき、悔い改めて、イエス・キリストによる罪からの救いを信じる全ての人です。このような人を、神は、御自分の民に加えてくださるのです。

イエスはその名の通り、全ての人にとって罪からの救いです。その方がお生まれになったというこの良い知らせがもたらされた時、ユダヤの人々は様々な反応を示しました。異邦人の東の博士達や貧しくても素直な羊飼達は、信じてイエスに会いに出かけました。救い主の訪れを待っていたシメオンじいさんやアンナばあさんもイエスに出会いました。しかし、自分の権力や権益を守ろうとしたヘロデ王や自分なりのキリスト観を持っていた祭司達、律法学者達は、イエスを信じて、礼拝を捧げることがありませんでした。

神様は、人を罪から救うイエス・キリストの良い知らせを、クリスマスを通して語っておられます。この知らせを信じる時、神とともに歩む新たな人生が始まり、この方がどんなにいつくしみ深く、愛に満ちた方であるか、聖であり、義であるかを知り始めるのです。クリスマスの祝福が、神を知ることがを願うすべての人の上に、豊かにありますように祈ります。





◎今年はどうな年？

今年も間もなく終わろうとしています。だから「今年はどうな年？」と聞くと、「良い一年だった」とか「計画倒れになってしまった一年だった」とかいう答えが返ってきそうですね。でも、この質問の意味するところはちょっと違うのです。実は「今年はどうな記念の年か？」という質問なのです。

そうすると、音楽好きな方からは、さっそく、「今年はワーグナーとヴェルディの生誕200周年だ」という答えが返ってくるかもしれませんね。あの『タンホイザー』や『ニーベルングの指輪』四部作などドイツ・オペラ史上に残る不朽の名作を生み出したワーグナーと、『椿姫（ラ・トラヴィアータ）』『アイダ』などドラマティックな作品を数多く作曲したイタリア・オペラの巨匠ヴェルディが同じ年（1813年）に生まれたとは、偶然かもしれませんが、面白いですね。まるで、生れながらにライバルであるかのようではありませんか。事実、オペラ愛好家もワーグナー派とヴェルディ派に大別されると聞きます。でも、本当でしょうか。どちらも素晴らしいですよ。

さて、「今年はどうな記念の年？」という質問に対して、お堅いところでは、「ゲティスバーグ演説150周年記念の年」という答えがあるかもしれません。1863年11月19日、アメリカ合衆国第16代大統領リンカーンは、ペンシルヴェニア州ゲティスバーグにある国立戦没者墓苑の奉獻式において2分間の短い演説を行いました。それは、南北戦争の激戦ゲティスバーグの戦いに倒れた人々を悼むものでしたが、その中に含まれている、「人民の人民による人民のための政治」という言葉が有名になりました。リンカーンはこの演説はすぐに忘れられるであろうと演説の中で述べているのですが、その予想に反して、民主主義の原理を要約しているものとして今日でもよく引用されるのですから、面白いですね。ちなみにこの年、日本ではいわゆる「攘夷論」が高まりを見せ、長州藩が外国船を砲撃したり、薩摩藩がイギリス艦隊と交戦（いわゆる薩英戦争）したりしています。この5年後に幕府が崩壊して、明治政権が成立するという激動の時代を迎えていたのです。きっと大河ドラマ「八重の桜」でご覧になったことでしょう。

実は、今年2013年は、結城福音キリスト教会にとっても記念の年でした。それは、教会創立60周年の年だったからです。1953年、ドイツのリーベンゼラ・ミッションの宣教師がこの結城の地にもイエス・キリストの恵みの福音を伝えたいと宣教活動を開始しました。それ以来、結城福音キリスト教会は、地域の皆様のご理解とご協力をいただきつつ、その働きを推し進めて、60年の年月を重ねてきました。今後もますます、地域に開かれた教会として、結城の人々に仕え、神の豊かな祝福をともに分かち合っていきたいと願っております。そのような思いから、今年もクリスマス特別集会を企画しました。

◇12月22日（日）10：30－12：00 クリスマス記念礼拝

◇12月24日（火）19：30－20：30 クリスマスキャンドル礼拝

是非、ご参加ください。そして、今年＝「イエス・キリストの生誕2013周年」を一緒に祝ってみませんか。

“いと高きところに、栄光が、神にあるように。

地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。”

（聖書）

